



主任コラム9月号

主任 澤井 良子

先月は、私は東京 GT サミット（保育環境研究所ギビングツリー）、GT 石川県全国大会（各県の実践研究発表）に行ってきました。

今の世の中でチャット GPT や AI が普及していくなかで、脳や人間形成の敏感な発達の年齢の子ども達と関わっている保育士や保育園に求められていることは何なのか・・・また非認知能力や自己肯定感が育つにはどのような保育士の関わりや環境が必要なのか、誰かの指示をただ待つのではなく自分で考えて行動し、自分の意見を言えるようになるにはどうしたらいいのかと言う話を学んできました。自己肯定感に関しては、安心できる大人に自分の気持ちを丸ごと受け止めてもらう体験や自分がやってあげた！人の役に立てた！という達成感を経験していくことが大切となるそうです。（内閣府が平成30年に実施した調査では大人で『自分が人の役に立っていると感じる』と答えた割合が日本は極めて低いとあります）それには0・1歳の時期の子ども同士の関わりから、子どもが誰かに「やってあげたい」という思いを大切に（例えば鼻水が出ているお友だちに気づき拭いてあげるなど）、子どもがどのような姿を見てやってあげたいと感じたのかを保育士が観察して、相手の子に気持ちを代弁して思いを伝えていくことから始まると思います。小さいうちから子ども集団の中に入っているからこそ、そういう力がついていくのだと思います。これからすすんでいくであろう時代の変化にもついていける大人になるために、今の子ども達に必要な力（非認知能力の部分）をつけるにはどうしたらいいかを、考えながら保育の中に取り入れていきたいと感じました。

また、6月から毎月1回ながさわ保育園の職員を5つのグループに分けて、滋賀県草津市にある、『のみちこども園』の保育や環境をみせてもらいに行っています。他園を見学させていただくことで自園の保育の振り返りをしたり、のみちこども園さんの保育士と情報交換をすることで子ども達によりよい環境や保育を提供できるヒントやアイデアをもらったり、そして自園に戻り保育士同士がみてきたことや感じた事を報告しています。現在職員同士の情報交換として、毎日お昼の時間に各クラスから日替わりで担任が1名ずつ集まり、クラスの様子、病気・ケガ等の周知、子ども達の可愛いかったエピソードや成長した所などを話したりするミーティングの時間をもっています。そして、子ども達自身が意欲的に身辺整理をできるようになるにはどうしたらいいかを見学の中で見てきて、先生達がながさわ保育園ではどうするかを話し合い、0・1・2歳児でエプロンやおしぼりを自分で片付けるやり方を導入しました。その様子を見てみると、おやつや給食後に、子ども達はスムーズに自分の顔写真の所へ片付けに行き、時には子ども達同士で助け合う姿もみられます。保護者の方にはご協力いただきありがとうございます。あと2グループ見学に行かせていただきますが、自園にだけで留まっているとなかなか気づけなかった部分が見えたり、全員の職員で見てくる事で共通の認識をもって保育の話をする事ができます。子ども達の為にどうしたらよりよい保育の展開ができるのか、環境を通して発達を促すにはどうすることが最善かを現場の先生と相談しながら取り入れていきたいと思っています。

